

科目名	演習3			
開講学期	2年次秋学期			
教員氏名（カナ）	田中辰雄、浮田善文、洪瀬雅彦			
単位数	2			
授業実施方法	対面講義			
教育の実務経験の有無	無	ノートPCの利用	毎回の授業で使用	
実務経験	該当なし			
キーワード	商学、マーケティング、データサイエンス	アクティブラーニングの実施	有	
授業の目的と概要	本講義は、修士2年向けの講義である。学生には実用的なデータ収集のアドバイスや、さらに発展的な関連文献の購読をさせて、知見を深めてもらう。報告に当たってはコミュニケーションとプレゼンのスキルを高めるための指導も行う。			
到達目標	1	発展的論文の購読と実用的なデータ収集法を身につける		
	A+	発展的論文の購読と実用的なデータ収集法を身につけ、さらに自分で工夫する		
	A	発展的論文の購読と実用的なデータ収集法を身につける		
	B	発展的論文の購読と実用的なデータ収集法がある程度身につける		
	C	発展的論文の購読と実用的なデータ収集法のどちらか片方を身につける		
	F	発展的論文の購読と実用的なデータ収集法が身につかない		
	2	修士論文の中間報告をする		
	A+	修士論文の中間報告を2回行い、2回目はほぼ完成に近い		
	A	修士論文の中間報告を1回行い、完成度が高い		
	B	修士論文の中間報告を2回する		
	C	修士論文の中間報告を1回する		
	F	修士論文の中間報告ができない		
	3	コミュニケーション・プレゼンの技量を身につける		
	A+	コミュニケーション・プレゼンで極めて優れた技量を身につける		
	A	コミュニケーション・プレゼンの優れた技量を身につける		
	B	コミュニケーション・プレゼンで技量を身につける		
	C	コミュニケーション・プレゼンで必要な事ができるようにする		
	F	コミュニケーション・プレゼンが不十分である		
	4			
	A+			
A				
B				
C				
F				
5				
A+				
A				
B				
C				
F				
履修上の注意	必修科目とする			
教科書・教材				
基本方針	教材は必要があれば講義中に指定する			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	学生の関心にあわせて適宜指定する			
推薦				
参考文献				

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応		
ディプロマポリシー（大分類）		対応
D1	社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を見出す能力	○
D2	課題解決に役立つデータサイエンスに関する汎用的な知識とスキル	
D3	(1) の能力を起点に (2) を重ね合わせ、社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を具体的に解決し得る方策を導き出す能力・スキル	○
D4	(3) で得られたソリューション（解決策）を社会等に訴求すべく具体的に働きかけるコミュニケーション力と行動力を備えたスキル	◎
D5	データ社会において (1) ～ (4) の一連のプロセスで発生し得る倫理上の課題を適切に認識する能力を備えたスキル	
成績評価方法	学生発表（100%）	
試験・レポート等に対するフィードバック		
授業時間外の事前事後学修		
	内容	学習時間
事前学習	指定文献を読んで要点をまとめ自分の見解を用意する	5 h
事後学修	演習での講義を要約し、学習したことをまとめておく	1 h
授業計画		
1	学生の自己紹介、興味関心の報告、学生の報告日の決定	
2	修士論文の中間報告。全員による討議をへて改善点を提示する	
3	修士論文の中間報告。全員による討議をへて改善点を提示する	
4	修士論文の中間報告。全員による討議をへて改善点を提示する	
5	修士論文の中間報告。全員による討議をへて改善点を提示する	
6	修士論文の中間報告。全員による討議をへて改善点を提示する	
7	教員から総括コメント。追加コメントを出し、必要に応じて個別指導を行う	
8	修士論文の中間報告（2回目）。改善した結果を報告し、さらに完成度を高める	
9	修士論文の中間報告（2回目）。改善した結果を報告し、さらに完成度を高める	
10	修士論文の中間報告（2回目）。改善した結果を報告し、さらに完成度を高める	
11	修士論文の中間報告（2回目）。改善した結果を報告し、さらに完成度を高める	
12	修士論文の中間報告（2回目）。改善した結果を報告し、さらに完成度を高める	
13	教員から最終コメント。完成度を高めるための改善点の提示	
14	教員から最終コメント。完成度を高めるための改善点の提示	
SDGsとの関連性		
8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基礎をつくろう		